

令和7年度 マダイ日本海西部・東シナ海系群資源評価会議
議事概要

日程：令和7年8月1日（水） 10時～12時

会場：水産研究・教育機構長崎庁舎中会議室 + MS teams オンライン会議

参加者：外部有識者、資源評価参画機関（以下、参画機関）、水産研究・教育機構（以下、機構）

概要

令和7年度マダイ日本海西部・東シナ海系群の資源評価（案）について、参画機関を代表して機構担当者より説明を行い、その内容について協議した。会議出席者による検討・議論の結果、公表に向けて体裁などの修正を行うものの、資源評価結果として承認された。

- ・ 令和7年度マダイ日本海西部・東シナ海系群の資源評価（案）についての議論

機構担当者より、参画機関を代表して資源評価報告書（案）の説明を行った。

《主な議論と結果》

- ・ 本評価における生物特性値および年齢別漁獲尾数の算出方法については、前年度に引き続き見直しが必要であるという共通理解はあるものの、現状ではその改訂にむけて整理を行っているところなので、昨年度と同じ設定を用いて行った。
- ・ 参画機関より書式についてのコメントがあり、提案のもので承認された。
- ・ 機構より年齢別漁獲係数の現状の選択率についてコメントがあり、研究機関会議で合意をされた選択率よりも現実的であると説明があり了承された。
- ・ 機構より CPUE 標準化において交互作用を行った場合のグラフの追加要望があり、該当する図をドキュメントに追加した。
- ・ 外部有識者からノミナル CPUE について質問があり、ノミナル CPUE は全体の値の平均値であると説明があった。VPA のチューニングについて、1つの指標では影響が大きいため改善が必要であると指摘があり、将来的に複数の指標値を検討したい旨の説明があった。またステップ3に入る前までに資源評価の改定を予定しているので、それまでに対応を行いたいとの説明があった。
- ・ 外部有識者から、F84%msy での暫定的な管理をすることだが、それをもって何を目指すのかがよくわからないとの指摘があった。また現場の資源状況との乖離があると聞いている。将来についてどのようにするのかを示してもらえないかとの指摘があった。これに対し、漁獲統計以外での漁獲も含めて検討を進めていきたいと考えていると返答があった。
- ・ このままの管理であれば、資源状況は現状維持であり、若齢魚の獲りすぎなど合理的な

仮定ではないようだ。長崎大学のヒアリングでは特定の漁船が小型のマダイを漁獲したり、仲買が小型マダイを加工している事例があるようだ。この資源の管理方針について議論が進めばよいとの指摘があった。これに対し、漁業者の意見も伺いながら進めたいと返答があった。また令和7年1月から始まった本系群の管理については、ステップ1では漁獲量の報告の整備などを行い、今後の方針について議論を進める予定であることを説明した。

- ・ 参画機関より調査・研究をする際に各県で年齢別漁獲尾数の算出をする方法が異なっているので問題であるとの指摘があった。これに対して、参画機関と協力しながら適切な計算となるよう改善を進めていると回答があった。

有識者講評：

- ・ ステップアップ期間ということで、以前は中位横ばいとされていたが、新たな資源評価となると乱獲状態とされた本資源において、様々な議論が重ねられてきたと認識しており、今後のステップアップ期間でデータの見直しや再計算が行われ、さらに検討がされると理解した。
- ・ それらの作業過程については説明を十分にいただき、現場感覚との乖離について原因を突き詰め解決をしていただきたい。
- ・ その上で資源をどのように利用するのかについては、現在のマーケットに迎合するような小型個体を利用する管理は推奨されないように気を付けていただきたい。